

越前町と みやま市との 交

流

第19回 越前町・みやま市 児童交流事業

越前町・みやま市児童交流事業として11月1日から11月3日の間、町内の小学6年生16人と引率者4人がみやま市を訪れました。みやま市では、ゲーム交流や幸若舞鑑賞、みかん狩りなどをおし、みやま市の児童と交流しました。

また、1月31日から2月2日には、みやま市の児童が越前町を訪問しています。ほとんど雪が降らないみやま市の児童にとって越前町での体験は思い出に残るものになることでしょう。

両市町の相互児の児童訪問は、自分のふるさとへの関心と知識が増え、児童間の友情が深まります。



歓迎式
(ゲーム交流)



きじ車絵付け体験



ウォークラリー (清水山)

内野樟脳工場見学



※内野樟脳工場で生産された天然樟脳は、防虫・芳香・防臭材として使用されている。昔ながらの製法で樟脳をつくる日本唯一の工場。



幸若舞説明 (大江天満神社舞堂)



みかん狩りを楽しむ児童

交流の背景

平成6年7月に「幸若舞」の縁で結ばれた福岡県みやま市(旧瀬高町)との姉妹縁組を礎として、お互いの歴史、文化、教育、産業などの各分野において、子どもからお年寄りまで町民一人ひとりのレベルでの交流を図り、相互に友好を深め、両市町の発展を願う交流が生まれました。その中で両市町の小学校児童の交流を行い、相互理解を深めることを目的とする「越前町・みやま市児童交流事業」が始まりました。



清水寺本坊庭園 (国指定名勝)

みやま市について

みやま市は福岡県の南端に位置し、平成19年1月29日に旧山門郡の瀬高町・山川町・旧三池郡高田町の3町が合併して誕生した、人口約4万人、面積約105km²の市です。「みやま」とは、旧三池郡の「三」・旧山門郡の「山」が由来となっています。

みやま市東部は清水山、御牧山などの丘陵や山系が連なっています。西部は有明海の干拓によって開かれた低地があり、全体として平坦な田園地帯が広がっています。主な産業は農業、漁業の一次産業のほか、地場産業も数多くあります。



みやま市の位置

幸若舞について

幸若舞は能や歌舞伎の原型といわれ、日本最古の舞楽として室町時代以来600年以上の伝統を誇り、特に織田信長に愛好されたことで有名です。

福井県越前町(旧朝日町)は、その幸若舞の発祥地で、現在も歴代幸若家の菩提寺である龍生寺を始め、幸若「舞の本」や寄進梵鐘、関連古文書など多くの遺品・資料が残され、「幸若音曲発祥の地」の碑が建立されています。

一方、福岡県みやま市(旧瀬高町)は、全国で唯一幸若舞が残っている伝承地です。昭和51年には国の重要無形民俗文化財の指定を受け、昔の姿そのままに、毎年1月20日に大江天満神社の舞堂で舞が奉納されています。



幸若舞



みやま市



みやま市章